椿が人々を繋いでくれています

ひろしまね園芸福祉協会は２００５年の創設以来、広島県と島根県の園芸福祉の仲間を繋いで園芸福祉活動のお手伝いをさせていただいています。私たちは全国に２２ある地域協力団体の一つですが、その活動はいろいろで呉市在住のメンバーが中心となって「呉・椿プロジェクト」というユニークな活動もしています。

呉市は広島県の西部、瀬戸内海に面した沿岸工業地帯ですが、その山野にはつばきが自生していて１９７２年にはつばきが市民花として定められました。

呉市の眺望

２００７年には「呉・椿プロジェクト」が始まり、呉市公園緑地課が主催して毎年３月に開催される“つばき祭り”に参加して、椿を市民の皆さんに五感で楽しんでいただくために、食用椿油で作るポップコーンを実演販売したり、椿油搾り体験をしていただいたりしていました。毎年その年のメインテーマを決めて市民皆さんと一緒に記念に残るオブジェなども作りました。

呉市の“つばき祭り”の様子

呉市を椿で元気にしようと、呉の名物でもある日本酒を椿の炭でろ過する新しい地酒を１４０年の歴史を誇る老舗の蔵元さんと共同開発し、今も大和ミュージアムで販売されています。この新製品を開発する時に椿の炭を作る必要があり、２００８年当時いろいろお世話になったのが伊豆大島の「椿の花工房」さんでした。(http://izu-oshima.jugem.jp/)　今年の４月にはお世話になったお礼に島を訪れて絆を深めてきました。ご自宅の庭には“あしたば”が栽培されていたのが印象的でした。

しかし、この前の台風２６号では島が甚大な被害を受けられ私たちもショックでしたが、お蔭さまで「椿の花工房」さんは無事で安堵しました。

伊豆大島の“椿の花工房”さんと“あん娘”さん

先日、私たちの協会の代表が勤めている社会福祉法人広島岳心会野呂山学園で学園祭が開催され、そこに屋台を出させていただくことになりました。(http://www.norosangakuen.or.jp/?p=258) 椿油で作るポップコーンを紙コップ１杯１００円で実演販売して、その売上金をすべて伊豆大島災害復興支援の義援金として寄付させていただきました。

椿を愛する呉市民に１３０杯ほど買っていただき、その思いが“あん娘つばき”で有名な伊豆大島で災害に遭われた方々に届けばいいなと思っています。

この学園祭の屋台には、この秋呉市で開催された初級園芸福祉士養成講座を受講された方々も参加してくださいました。この方々はもちろん呉市民ですが椿に大変興味を持っていただいて、早速「呉・椿の種ひろい隊」が結成され、学園祭の前に椿の油を搾るために瀬戸内海に面した音戸の瀬戸公園に種をひろいに行きました。

“呉・椿の種ひろい隊“のメンバー@音戸の瀬戸公園

野呂山学園の学園祭の様子

これからも椿他、植物をとおしていろんな方々との交流が広まって街が明るく、平和であることを祈っています。

（ひろしまね園芸福祉協会　進藤記）